平和への願いを込めて

～平和都市宣言推進事業「平和の旅」～

8月6日(日)、野々市・布水両中学校から14人の生徒が広島市の平和記念式典に参加し、平和への祈りを捧げました。式典前日の5日(土)には、原爆の子の像の前で布水中学校の脇内美咲さんが自身の思いをつづった平和宣言文を読み上げ、平和への誓いを新たにするとともに、両中学校の生徒が作成した折り鶴を捧げました。参加した生徒2人の感想を紹介します。

平和に向けて

布水中学校3年 木谷　圭吾

私が平和の旅を通して考えたことは核兵器廃絶を訴え続けることが大切だということです。私が広島に行っている時、たくさんの人が心を一つにして核兵器廃絶や平和を願っていることを感じました。

今から約七十八年前、広島に一発の原子爆弾が落とされました。その爆弾によって街は一瞬のうちに焼け野原になり、多くの罪のない命が奪われました。原爆ドームを改めてよく見てみて、原子爆弾がどれほど酷いものであったかを知り、胸に深く突き刺さりました。平和記念公園には核兵器がこの世界から無くなるまで燃え続ける火がありました。私は火を見て説明を聞いた時、「あとどれくらいの時間が経てば火を消せるのだろう」と感じました。核兵器が無くなるには途方もない時間が必要になるような気がしました。しかしそれと同時に私たちが強い思いを持って核廃絶を訴え続けることが少しでも核兵器を早く無くすことにつながると思いました。平和記念資料館で見た原子爆弾の人への被害やその後の生活への影響を具体的に知り大きなショックを受けました。平和式典では宣言や誓いを聞き、平和について世界の人々が自分事として考えることが必要だと思いました。

今、世界では平和な地域もありますが、そうでない地域もあります。その地域で人々が平和に生活できるように、悲劇を二度と繰り返さないようにするために平和を訴え続け、悲劇を風化させないことが必要だと考えます。

原爆ドーム前

平和宣誓文読み上げ

平和への思い

野々市中学校3年 髙本　芽子

「平和」みなさんはこの言葉をどのように捉えていますか？　私は今まで「平和」とはみんなが平等という捉え方でした。しかし、この平和祈念式を通し、「平和」にはさまざまな捉え方があり、たくさんの意味があると気づかされました。こども代表による平和の誓いで「平和とは、争いや戦争がないこと、差別をせず違いを認め合うこと、悪口を言ったりけんかをせずみんなが笑顔になれることだ」と言っていました。私たちの身近にも平和が存在しているのだと改めて感じました。

私はこの2日間で、目を疑う写真をたくさん目にしました。片目が無くなってしまった人、体中がケロイドになった人、片手が無くなってしまった人。しかし、ただ目を疑っただけではなくそれと同時に命の尊さ、人間の生きようとする力のすごさを改めて感じました。

今、当たり前のようにある命が明日必ずあるとは限りません。戦争や争いで今も命を落としている人はたくさんいます。しかし、明日この命が必ずあるとは限らないからこそ今この瞬間から平和への思いを一つにするべきだと思います。一日でも早く争いや戦争が無くなり、命を落とす人がいなくなることを私はこの先ずっと願っています。